

二階の編輯室に通ずる受話器をぐる／＼廻しても、誰も出て来ない。僕は痼癢を起して受話器を柱に打突けた。

廣告するからと言つて廣告部に、

——ダ、表現會、十七日午後六時より

——於神田青年會館

と書いて二十圓渡して受けとり貰つた。

數寄屋橋の袂のブラジルカフェーで、洋食を六皿ばかり食つた。

外氣は甚く寒むかつた。

食氣が一時的に盛んになるのは、神精病者に好くある徴候だ。

朝日新聞社に新居格を訪ねた。

三階の食堂にコーヒを飲んで待つてゐるとやつて來た。

彼はカボチャと言ふアダナだ。

『誰々がやるんだい』と問ふから、僕は